

日仏16作家が「24時間小説」

京都－松江間 豪華列車で執筆

豪華列車で小説を書き上げる――。小説みたいな話？

いえいえ、日本とフランスの作家16人が10月、リアルに挑戦する。出発駅の京都からゴールの松江まで、タイムリミットは24時間だ。

「24時間小説」と名付けられたこのプロジェクトは、フランスの文学創作支援団体「レクリチュール・アン・ムーブマン」が主催し、朝日新聞社も後援する。2015年に初めてカナダで開催され、フランス語圏の作家24人がハリファクスからトロントへ移動する列車に乗り込んで創作に取り組んだ。2回目の開催となる今回は、JR西日本が

特別運行する豪華列車「トワイライトエクスプレス 瑞風」で創作する。

日本の作家は荻野アンナ、朝吹真理子、円城塔、金原ひとみ、松浦寿輝、辻仁成、江國香織、俵万智の8人。フランスからは「異常（アノマリ）」でフランス最高峰の文学賞、ゴンクール賞を受賞したエルベ・ル・テリエや、「優雅なハリネズミ」でフランスの本屋大賞に輝いたミュリエル・バルベリら8人が参加する。

10月22日に京都を出発し、列車の中でそれぞれ1章ずつ執筆。翌23日に松江で細やかな筆致を添え、約300ページに

およぶ一編の小説を書き上げる。作品は刊行される予定。

松江に滞在して2日目の24日は、松江市役所で作家たちが小説の内容を語り合うラウンドテーブル（トークセッション）が開かれる。書くことの喜びを体感する創作ワークショップもある。その後、作家たちは東京に移動し、25日に東京で交流イベントを開く。

松江市役所でのラウンドテーブルは、サイン会を含めて午前10時半～午後0時半、午後3時～5時の計2回開催。定員は各回100人で参加料は2千円（松江市在住または松江市内の学校に通学している学生は無料）。創作ワークショップは午前10時半～正午、午後3時～4時半の計2回。定員は各回20人で参加無料。

申し込みは9月30日正午まで。松江市のホームページ内にある申し込みフォームから申し込む。応募多数の場合は抽選。問い合わせは市国際観光課（0852・55・5632）。

（堀田浩一）

2）。

（堀田浩一）



Les 24 heures du roman
2026年10月22-25日

Un roman naît au fil des rails
列車は走る・小説が生まれる



国際文学プロジェクト「24時間小説」のイメージ画像
=L'écriture en mouvement提供

江國香織、俵万智、エルベ・ル・テリエら参加